

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●C. ルメール騎手がJRA年間100勝を達成

9月3日(日)の3回新潟8日・第1レースではルージュスエルテが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、川田将雅騎手に次いで本年2人目、自身にとっては9年連続9回目となるJRA年間100勝を達成しました。

●2023年サマー2000シリーズは優勝馬なし

9月3日(日)の新潟記念(GⅢ)をもって本年のサマー2000シリーズが終了しました。札幌記念(GⅡ)勝ち馬プログノーシスが12ポイントを獲得して首位となったものの「合計得点が13点以上」の規定を満たさなかったため、シリーズチャンピオンは「該当馬なし」となりました。

●各地で夏のリーディングジョッキーが決まる

9月3日(日)をもって本年の夏競馬が終了しました。札幌では1回札幌で12勝、2回札幌で10勝、計22勝をあげた横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)が開催リーディングジョッキーとなり、新潟では2回新潟で10勝、3回新潟で2勝、計12勝をあげた川田将雅騎手(栗東・フリー)が夏の新潟リーディングジョッキーの座を獲得。小倉では3回小倉競馬で10勝をあげた坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)が夏の小倉リーディングジョッキーに輝きました。

●ジョッキーベイビーズの東北・新潟地区代表が決定

8月20日(日)、福島競馬場で全国ポニー競馬選手権「第13回ジョッキーベイビーズ」の東北・新潟地区代表決定戦が実施され、佐久間悠太さん(中学1年生・福島乗馬スポーツ少年団)が地区代表に決定しました。これで全7地区・8名の代表がすべて決定。各地区の代表は、10月8日(日)、東京競馬場で行われる決勝大会に出場します。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド大井の結果

2023ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド大井は9月5日に実施され、第1戦は小林美駒騎手(美浦)、第2戦は菅原涼太騎手(大井)が優勝しました。

●ルーキーズサマーCはアムクラージュ【各地の主要2歳重賞】

新設重賞のルーキーズサマーC(8月30日、浦和、1400m)は、3番手からレースを進めた単勝1.5倍で断然人気のアムクラージュ(牡、父ホッコータルマエ)が3、4コーナー中間で抜け出し、後続を5馬身引き離しました。フルールC(8月24日、門別、1200m)は、2番手から直線半ばで逃げ馬を捉えた2番人気のヨシノヒロイン(父モーニン)が5馬身差の勝利を収めています。

●ヒーローコール(浦和)が黒潮盃に優勝【各地の主要3歳重賞】

黒潮盃(8月16日、大井、1800m)は、3番手から残り200mを切った辺りで抜け出した2番人気のヒーローコール(牡、父ホッコータルマエ)が、アメリカ遠征帰りで1番人気のマンダリンヒーローを1馬身3/4差で退け、3度目の重賞制覇。星雲賞(8月15日、門別、1200m)は、後方から追い上げた5番人気のサルトアンヘル(牝、父ダンカーク)がゴール前で差し切りました。岐阜金賞(8月30日、笠松、1900m)は、3番手を追走した2番人気のペップセ(牝、父ネロ)が最後の直線入口で先頭に立って押し切り、クイーンCに次ぐ重賞勝ち。不來方賞(9月3日、水沢、2000m)は、4番手から3コーナー過ぎに抜け出した2番人気のルーンファクター(牡、父インカンテーション)が7馬身差で圧勝。岩手三冠を目指した単勝1.1倍で圧倒的人気の牝馬ミニアチュールは、逃げたものの4着に沈んでいます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●豪年度代表馬2回のネイチャーストリップが引退

2019/20年と2021/22年シーズンにオーストラリアの年度代表馬に輝いたネイチャーストリップ(騾9歳、父ニッコーニ、C. ウォラー厩舎)が、現地9月2日のG3コンコルドS(6着)を最後に引退しました。ネイチャーストリップは20年から22年まで3連覇したTJスミスS(芝1200m)、イギリスのロイヤルアスコット開催に遠征して手にした22年のキングズスタンドS(芝1000m)を含むG1・9勝。このほかに芝では世界最高賞金を誇るジエベレスト(芝1200m、当時総賞金1500万豪ドル=当時のレートで約12億4500万円)も21年に制しました。

●G1パシフィッククラシック〜アラビアンナイトが逃げ切る

9月2日にアメリカ・カリフォルニア州のデルマー競馬場で行われたG1パシフィッククラシック(3歳上、ダート2000m)は、F. プラ騎手が騎乗したアラビアンナイト(牡3歳、父アンクルモー)が逃げ切り勝ち。クビ差の2着にG1ハスケルSの勝ち馬ゴローケットライドが入って3歳馬が1、2着を占めました。勝ったアラビアンナイトは2歳11月のデビュー戦(ダート1400m)と3歳1月のG3サウスウエストS(ダート1700m)を連勝しましたが、出走態勢が整わず米三冠を回避。復帰戦となった7月のG1ハスケルS3着からここに臨んでいました。管理するB. パファート調教師はこのレースの最多勝となる7勝目です。